

平成 13 年度イタリアンライグラス優良品種選定試験

竹中 勲・堀川 大輔[※]・榎堀 善文

[※]農業技術センター

要 約

イタリアンライグラス 15 品種の特性を比較した。気温は、冬期は平年並み、春期は平年よりやや高く、6 月は平年に比べやや高かった。降水量は、冬季は平年に比べやや多く、春期は少なかった。特に 3 月、4 月は平年に比べかなり少なかった。

極早生群 乾物収量はミナミアオバ、ハナミワセが多く、倒伏はどの品種も強かったが、ミナミアオバがやや弱かった。

早生群 乾物収量は 1,2 番草合計でタチマサリが多かったが、倒伏にやや弱かった。

中・晩生群 乾物収量は 1,2 番草合計でヒタチヒカリ、ナガハヒカリが多く、トップが少なかった。倒伏はヒタチヒカリ、アキアオバ、ムサシが強かった。再生はジャイアント、トップがやや悪かった。

緒 言

本県に適するイタリアンライグラス優良品種の選定を行う。

試験方法

表 1. 供試品種 (*は試験実施時の奈良県奨励品種)

1. 試験期間	早晚性	品種名	倍数性	供誌年次		
				H11	H12	H13
昭和 57 年より継続、 比較品種は原則として 3 年間。	極早生	ミナミアオバ*	2 倍体	○	○	○
		ウヅキアオバ*	2 倍体	○	○	○
		ワセフドウ	2 倍体	○	○	○
		ハナミワセ	2 倍体			○
2. 圃場 当場内 (標高 349m、年平均気温 12.4℃)	早生	ワセアオバ*	2 倍体	○	○	○
		タチマサリ*	2 倍体	○	○	○
		ニオウダチ*	2 倍体	○	○	○
		ハルタチ	2 倍体	○		○
		はるかぜ	2 倍体		○	
		タチムシャ			○	○
		ジャイアント*	4 倍体	○	○	○
		ナガハヒカリ*	4 倍体	○	○	○
		アキアオバ*	4 倍体	○	○	○
		トップ	4 倍体	○	○	○
3. 供試品種 表 1 のとおり 本県奨励品種 8 品種、 対照品種 7 品種	中・晩生	ムサシ	4 倍体			○
		ヒタチヒカリ	4 倍体			○

4. 栽培方法

試験区：1区面積 6 m² (=3m×2m) 2反復乱塊配置

播種日：平成12年10月19日

播種量：2倍体品種 150g/a 4倍体品種 250g/a

播種法：条播 条間40cm

施肥量：厩肥 600 kg/a 苦土石灰 10 kg/a

	N	P ₂ O ₅	K ₂ O	(kg/a)
基肥	0.26	0.32	0.32	
追肥 (各刈取毎)	0.28	—	0.36	

刈取期：出穂期刈を基準とした。

5. 調査項目

「近畿・中国地域 牧草・飼料作物 品種・系統選抜試験実施に関する申し合わせ(昭和57年3月)」および「牧草系統適応性検定試験実施要領(改訂2版)」に準じて調査した。

結果および考察

1. 生育調査(発芽～出穂前)

いずれの品種も発芽および初期生育は良好であった。耐寒性においても、いずれの品種も問題は無かった。

2. 生育調査(出穂～刈取)

具体的数字は表2-1、2-2のとおりである。

(概要)

a. 極早生群

倒伏はどの品種も強かった。

b. 早生群

倒伏はどの品種も強かった。再生はハルタチが最も良く、どの品種も良好であった。

c. 中・晩生群

倒伏はアキオアバ、ムサシ、ヒタチヒカリが他品種に比べ強かった。

再生はムサシが良く、ジャイアント、トップがやや悪かった。

表 2-1 生育調査 (1 番草 出穂～刈取)

早晚性	品種名	出穂始	刈取日	刈取時	刈取時	刈取時	再生程度
		期		出穂程度	草丈	倒伏程度	
		月/日	月/日	1 無～5 極多	cm	1 無～5 甚	1 良～5 不良
極早生	ミナミアオバ	4/15	4/18	3	81	2	
	ウヅキアオバ	4/14	4/18	2	90	1	
	ワセフドウ	4/15	4/18	4	85	1	
	ハナミワセ	4/14	4/18	5	90	1	
早生	ワセアオバ	4/25	4/27	2.5	90	1	1
	タチマサリ	4/24	4/27	3.0	109	2	1
	ニオウダチ	4/25	4/27	2.8	96	1	1
	ハルタチ	4/24	4/27	2.8	93	1	1
	タチムシャ	4/28	4/27	0.9	99	1	1
中・晩生	ジャイアント	5/2	5/10	3.3	120	3	3
	ナガハヒカリ	5/2	5/10	3.3	129	3	2
	アキアオバ	5/6	5/10	1.8	123	1	1
	トップ	5/1	5/10	3.5	124	4	3
	ムサシ	5/6	5/10	2.0	118	1	1
	ヒタチヒカリ	5/1	5/10	4.0	136	1	2

表 2-2 生育調査 (2 番草 出穂～刈取)

早晚性	品種名	出穂始期	刈取日	刈取時	刈取時	刈取時
				出穂程度	草丈	倒伏程度
		月/日	月/日	1 無～5 極多	cm	1 無～5 甚
早生	ワセアオバ	5/11	5/29	5	79	1
	タチマサリ	5/10	5/29	5	85	1
	ニオウダチ	5/10	5/29	5	74	1
	ハルタチ	5/11	5/29	5	73	1
	タチムシャ	5/13	5/18	5	75	1
中・晩生	ジャイアント	5/24	6/8	5	80	1
	ナガハヒカリ	5/23	6/8	5	104	1
	アキアオバ	5/26	6/8	3	92	1
	トップ	5/24	6/8	5	89	1
	ムサシ	5/26	6/8	2	86	1
	ヒタチヒカリ	5/23	6/8	4	96	1

3. 収量調査

具体的数字は表3のとおりである。

(概要)

a. 極早生群

乾物収量はハナミワセ (67.5kg/a) ミナミアオバ (66.3kg/a) が最も多く、ワセフドウ (52.7kg/a) が最も少なかった。

b. 早生群

乾物収量は1番草でタチマサリ(74.6kg/a)が最も多く、ワセアオバ(52.3 kg/a)が最も少なかった。総乾物収量もタチマサリ(112.9kg/a)がやや多かった。

c. 中・晩生群

乾物収量は1番草でナガハヒカリ (97.1kg/a)が最も多く、トップ (72.4kg/a) が最も少なかった。総乾物収量ではナガハヒカリ (138.8kg/a)、ヒタチヒカリ (136.0kg/a) が多く、トップ (102.5kg/a) が最も少なかった。

表3 収量調査

早晚性	品種名	1 番草		2 番草		合計	
		生草収量 kg/a	乾物収量 kg/a	生草収量 kg/a	乾物収量 kg/a	生草収量 kg/a	乾物収量 kg/a
極早生	ミナミアオバ	390	66.3			390	66.3
	ウツキアオバ	353	60.0			353	60.0
	ワセフドウ	310	52.7			310	52.7
	ハナミワセ	397	67.5			397	67.5
早生	ワセアオバ	327	52.3	192	38.8	519	91.1
	タチマサリ	439	74.6	224	38.3	663	112.9
	ニオウダチ	375	63.8	202	39.0	577	102.8
	ハルカゼ	346	58.8	219	44.0	565	102.8
	タチムシャ	393	66.8	206	40.4	599	107.2
中・晩生	ジャイアント	501	85.2	221	35.4	722	120.6
	ナガハヒカリ	571	97.1	282	41.7	853	138.8
	アキアオバ	481	81.8	283	39.9	764	121.7
	トップ	426	72.4	188	30.1	614	102.5
	ムサシ	439	74.6	291	40.4	730	115.0
	ヒタチヒカリ	565	96.1	273	39.9	838	136.0

4、平成 11 年度～平成 13 年度試験結果

中・晩生品種トップについて

試験期間の 3 年が経過したため、試験品種トップ（中・晩生）と奨励品種ナガハヒカリの比較を行った。

主要成績は、表 4 のとおり。出穂始め、倒伏ともにナガハヒカリと比べ差は少なかった。収量は 1 番草では同程度だが、2 番草の収量は平均で 10.9kg/a 少なく、総乾物収量でも 10.4kg/a 少なかった。全般的にナガハヒカリに比べ特筆すべき点はなかった。

表 4 ナガハヒカリとトップの比較

品種	年度	出穂始 月日	1 番草		2 番草		総乾物 収量 kg/a	
			倒伏 1 無～5 茎	乾物収量 kg/a	倒伏 1 無～5 茎	乾物収量 kg/a		
ナガハヒカリ (奨励品種)	H11	4/30	3	102.0	5/21	1	22.0	124.0
	H12	5/2	3	108.0	5/23	4	49.0	157.0
	H13	5/2	3	97.1	5/23	1	41.7	138.8
	平均		3	102.4		2	37.6	139.9
トップ	H11	4/30	3	107.0	5/21	1	21.0	128.0
	H12	5/1	5	129.0	5/24	3	29.0	158.0
	H13	5/1	4	72.4	5/24	1	30.0	102.5
	平均		4	102.8		1.7	26.7	129.5

参考文献

近畿中国地域試験研究打合せ会議草地飼料作部会：近畿・中国地域 牧草・飼料作物品種・系統選抜試験 実施に関する申し合わせ;2～5(1982)

農林水産技術会議事務局ほか：牧草系統適応性検定試験実施要領(改訂 2 版);5～7(1990)

堀川ら：奈良県畜産技術センター研究報告 28 号;20～24(2001)